

戦後80周年を迎えるにあたり

平和で豊かな沖縄の実現に向けて「平和を考える機会」を創出します。

今年、沖縄県では、沖縄戦終結から80年を迎えるにあたり、戦後90年、100年といった長期的な視点に立ち、「恒久平和に向けたビジョン(仮称)」の策定に向けた取組を推進するほか、沖縄戦の実相・教訓を正しく次世代に伝えていくため、平和祈念資料館のリニューアルに向けた取組、平和の礎の発信力強化、平和学習の充実、次世代へ語り継ぐ担い手の育成・確保などの取組を推進してまいります。

「沖縄戦終結から80年間の歴史を振り返り、沖縄戦の犠牲者を追悼するとともに、平和を希求する「沖縄のこころ」を継承するほか、未来へ向け、県民一人ひとり、さらには、沖縄を訪れる全ての人々を含めて、平和で豊かな沖縄を描いていく」をテーマとして、戦後80周年平和祈念事業を実施してまいります。

戦後80周年平和祈念シンボルマーク

平和を希求する「沖縄のこころ」を広く発信していく象徴として、公募により応募のあった作品の中から、シンボルマークを決定しました。

企業・団体などにおいても、「戦後80周年」や「平和」に関連する事業であれば、県の承認を得た上でご使用いただけます。詳しくは県ホームページをご覧ください。

第32軍司令部壕保存・公開の取組

沖縄戦の軍事的中枢施設であった第32軍司令部壕は、沖縄戦の実相を次世代に語り伝えるために極めて重要な歴史的戦跡であることから、同壕の保存・公開に向けて必要な詳細調査や平和発信・継承の取組を行っています。

今回、保存・公開の取組の機運醸成の一環として、VR(拡張現実)技術による坑道内疑似体験イベントを行います。

第32軍司令部壕に関する情報は専用ホームページでご確認ください。

「沖縄のこころ」の海外発信強化の取組

県では、韓国の済州フォーラムへの参加や、済州特別自治道、ドイツのオスナブリュック市、フランスのベルダン市と県で構成するグローバル平和都市連帯を通じた連携、カンボジアでの平和博物館設置に係る技術協力などを通して、平和を希求する「沖縄のこころ」の海外発信強化を行っています。引き続き、平和を軸とする国際ネットワークの構築に取り組むことに加え、シンポジウム開催などを通し、海外発信の強化に取り組みます。

戦後80周年シンボルマーク



沖縄戦と平和をイメージして月桃が描かれ、緑色を基調としています。

シンボルマーク紹介ページ▶



第32軍司令部壕の保存・公開（VR技術の様子）



済州フォーラムにおける、グローバル平和都市連帯セッションでの登壇

問い合わせ

平和・地域外交推進課

電話：098-894-2226

FAX：098-869-7018

